様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：２４５０１
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９ＫＫ０００７

研究課題名（和文）インド北東部の消滅の危機に瀕した言語文化のドキュメンテーション

研究課題名（英文）Documentation of Endangered Languages and Cultures of Northeast India

研究代表者
林　範彦（Hayashi, Norihiko）

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：４０４５３１４６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　14,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は新型コロナウイルス禍の影響を受けつつも、代表者・分担者・協力者が工夫し、インド北東部での現地調査やデータ収集を進めた。林と長田は2020年2月にインド・アッサム州でホー語の録音を行い、林は2023年3月にシンポー語とタイ・パケ語の調査を実施した。西田はアルナーチャルプラデーシュ州等で占い文書の調査を繰り返し、村上はナガランド州等で民話と文法データを収集した。2023年9月のHimalayan Languages Symposiumで、林は動物語彙の比較研究、長田はムンダ語、西田はブータンの占い文書について発表。倉部はジンポー語の資料をアーカイブ化した。研究成果は今後も発表予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、インド北東部の消滅の危機に瀕した言語と文化を詳細に記録・分析し、言語学や文化人類学の分野における基礎資料を提供する点で学術的意義がある。特に、少数言語の音韻、文法、語彙のデータを収集・公開することで、これらの言語の保存とさらなる学術研究を可能にする。
　また本研究の社会的意義としては、消滅の危機に瀕する地域言語と文化の保護を目指し、地域コミュニティの文化的アイデンティティの維持に貢献する点が挙げられる。また、今後の収集データの整理と公開により、教育資源としての利用が促進され、広く社会に対して言語多様性の重要性を啓発する役割を果たす。

研究成果の概要（英文）：This research, despite the challenges posed by the COVID-19 pandemic, was advanced through the innovative efforts of the principal investigator, co-investigators, and collaborators, focusing on fieldwork and data collection in northeastern India. In February 2020, Hayashi and Osada conducted recordings of the Ho language in Assam. Subsequently, in March 2023, Hayashi undertook investigations of the Singpho and Tai Phake languages. Nishida conducted repeated surveys of divination texts in Arunachal Pradesh and other regions, while Murakami collected folklore and grammatical data in Nagaland and surrounding areas. At the Himalayan Languages Symposium held in Paris at INALCO in September 2023, Hayashi presented a comparative study on animal vocabulary, Osada on the Munda language, and Nishida on divination texts in Bhutan. Additionally, Kurabe successfully archived extensive materials on the Jingpho language. These research findings are scheduled for continued publication in the future.

研究分野：言語学、地域研究

キーワード：インド北東部　チベット・ビルマ諸語　タイ・カダイ諸語　オーストロアジア諸語　ドキュメンテーション　危機言語　記述言語学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究は、インド北東部における消滅の危機に瀕した言語文化を記録･保存することを目的として開始された。インド北東部は、多様な言語と文化が共存する地域であるが、その多くが急速な変化の中で失われつつある。この地域には、チベット･ビルマ諸語、タイ･カダイ諸語、オーストロアジア諸語など、多様な言語が存在し、それらの中には消滅の危機に瀕しているものも多い。これらの言語は、地域の文化や伝統を保持するために重要な役割を果たしているが、現代の急速な社会変化により、その存在が脅かされている。

1990 年代から、生物多様性への関心の高まりとともに、言語多様性への関心も高まり、消滅の危機に瀕した言語（以下、危機言語）の調査の重要性及び緊急性が叫ばれるようになった。また、危機言語が表出する文化も消滅の危機にある。オーストラリア国立大学のニコラス･エヴァンズ教授の著作『Dying Words』は、この危機言語の現状とその消滅がもたらす問題点について実例を挙げながら論じており、エヴァンズ教授の著作が日本語に翻訳され、『危機言語』(京都大学学術出版会)として出版されたことも、危機言語の問題に対する関心を高める一因となった。

こうした背景から、インド北東部の言語と文化を記録し、保存することが急務とされた。本研究は、これらの言語と文化を詳細に記録し、後世に伝えることを目指している。インド北東部は長い間、外国人の入国を制限してきたが、近年開放され、今後の研究推進が望まれるようになった。研究代表者である林は、京都大学で学部生･大学院生として危機言語のドキュメンテーションの重要性を学び、その後もタイやミャンマーでのフィールドワークを通じて、危機言語の現状を把握してきた。

インド北東部にはアッサム州、アルナーチャル･プラデーシュ州、トリプラ州、マニプル州、ミゾラム州、メガーラヤ州、ナガランド州の７州が含まれ、これらの州では過去に独立運動や過激な政治運動が盛んであったため、外国人の立ち入りが禁じられていた。そのため、危機言語調査を行うことが非常に困難であったが、ここ 10 年ほどで状況が改善され、多くの地域が外国人に開放されるようになった。本研究は、インド工科大学グワーハーティー校（IITG）との共同研究を通じて、危機言語のドキュメンテーションセンターの設立を目指した。IITG はインド国立の研究機関であり、優れた音声分析機器を有しているため、日本の若い研究者とともに共同研究を進めるのに最適な環境を提供している。

２．研究の目的

本研究の主な目的は、インド北東部の消滅の危機に瀕した言語文化を記録し、将来の研究や保存活動の基礎資料とすることである。具体的には、以下の 3 つの目的を掲げる ：

1. **言語データの収集と記録**：インド北東部に存在する多様な少数言語のデータを収集し、録音、録画、筆記などの方法で記録する。これにより、言語の音韻、文法、語彙、語用論に関する詳細なデータを得ることができる。

2. **文化資料の収集と記録**：言語と密接に関連する文化資料（民話、歌謡、儀礼、口承文芸など）を収集し、記録する。これにより、言語が果たす文化的役割や、言語と文化の相互関係を明らかにする。
3. **データの公開と利用促進**：収集したデータをデジタルアーカイブとして公開し、研究者や地域コミュニティが利用できるようにする。また、収集データを基にした研究成果を発表し、言語保存の重要性を広く知らせる。

これらの目的を達成することで、インド北東部の言語文化の消滅を防ぎ、持続可能な形で保存することを目指している。また、これにより地域社会の文化的アイデンティティの維持にも貢献することが期待されている 。

３．研究の方法

本研究では、フィールドワークを中心に据えた調査方法を採用した。具体的な手法としては、以下の通りである ：

1. **現地調査**：研究代表者および分担者・協力者がインド北東部の各地域に赴き、現地の言語話者と接触してデータを収集する。具体的には、自然発話の録音、ビデオ撮影、インタビュー、参与観察などの方法を用いる。例えば、研究代表者の林は 2023 年 3 月にアッサム州ティンスキア地区を訪れ、シンポー語およびタイ・パケ語の現地調査を行った。また分担者の西田はアルナーチャル・プラデーシュ州・西ベンガル州などを訪れ、チベット寺院の調査を行った。協力者の村上武則は頻繁にインド北東部を訪れ、ヴァイペイ語などのチベット・ビルマ系諸語のテキストデータの収集と社会言語学的な調査を展開した。
2. **データ分析**：収集したデータを基に、音韻、文法、語彙、語用論の各側面について詳細な分析を行う。これにより、各言語の特徴や他の言語との関係性を明らかにする。例えば、村上はヴァイペイ語の文法現象を詳細に調査し、その成果を国際会議で発表した 。
3. **データのデジタル化とアーカイブ化**：収集したデータをデジタル形式に変換し、データベースとして整理する。また、データをインターネット上で公開し、広くアクセスできるようにする。これにより、収集データの利用促進を図る 。
4. **共同研究**：インド工科大学グワハーティ校や他の研究機関との連携を強化し、共同で調査を進める。これにより、現地の研究者やコミュニティとの協力体制を構築し、持続的な研究活動を可能にする 。

新型コロナウイルスの影響で現地調査が制限された期間には、オンラインでのデータ収集や分析を行い、研究の継続を図った。また、研究メンバー間で定期的な情報交換会を実施し、調査の進捗状況や今後の計画について議論した 。

４．研究成果

本研究は、インド北東部における消滅の危機に瀕した言語文化についてドキュメンテーションを目的として開始された。インド北東部は、多様な言語と文化が共存する地域であるが、その多くが急速な変化

の中で失われつつある。この地域には、チベット・ビルマ諸語、タイ・カダイ諸語、オーストロアジア諸語など、多様な言語が存在し、それらの中には消滅の危機に瀕しているものも多い。これらの言語は、地域の文化や伝統を保持するために重要な役割を果たしているが、現代の急速な社会変化により、その存在が脅かされている。

1) 言語データの収集と記録

本研究では、インド北東部に存在する多様な少数言語のデータを収集し、録音、録画、筆記などの方法で記録した。新型コロナウイルス禍によりインドへの入国や調査が難しかったが、研究協力者の村上を中心に部分的ながら進めることができた。具体的には、自然発話の録音、インタビュー、参与観察などを通じて、各言語の音韻、文法、語彙に関する詳細なデータを得た。

例えば、研究代表者の林と分担者の長田は、2020 年 2 月にインドに渡航し、インド工科大学グワハーティー校の Priyankoo Sarmah 教授(当時、准教授)と今後の研究計画を打ち合わせ、アッサム州、マニプール州、アルナーチャル・プラデーシュ州の言語・文化の調査計画を検討した。さらに、ムンダ人コミュニティを訪問し、社会言語学的な状況調査を実施した。研究代表者の林は(4)に述べる合同調査を 2023 年に行った。研究協力者の村上は、ヴァイペイ語、コム語、タンクール語のデータを収集し、これらのデータをもとにした学会発表や論文の執筆を行った。

2) 文化資料の収集と記録

言語と関連する文化資料（民話、歌謡、儀礼、口承文芸など）の収集と記録も本研究の重要な目的である。研究分担者の西田は、インド・アッサムから東ブータンにかけて、チベット仏教文化の調査と資料収集を行った。特に、インド北東部のチベット仏教寺院における占いの調査や、占い文書の収集を進めた。

3) データの公開と利用促進

収集したデータをデジタルアーカイブとして公開し、研究者や地域コミュニティが利用できるようにすることも本研究の重要な成果である。具体的には、収集した言語データや文化資料をデジタル化し、オンラインで公開するための準備を進めた。また、2023 年度には、研究代表者の林、研究分担者の長田・西田は研究成果をパリで開かれた Himalayan Languages Symposium で発表した。研究分担者の倉部はミャンマー側のジンポー語の物語について 107 話分のテキストデータを公開した。

4) 国際共同研究の推進

本研究では、インド工科大学グワハーティー校（IITG）との共同研究を通じて、国際的な研究ネットワークを構築した。IITG は、優れた音声分析機器を有し、日本の若い研究者とともに共同研究を進めるのに最適な環境を提供している。新型コロナウイルスの影響により、現地調査は一時的に中断されたが、オンラインでの打ち合わせやデータ分析を通じて研究を継続した。例えば、2021 年度には、本科研メンバーの研究情報交換会および打ち合わせをオンラインで実施し、インド側のカウンターパートとの協力体制を確認した。

研究代表者の林は 2023 年 3 月に IITG の Priyankoo Sarmah 教授とともにアッサム州ティンスキヤ地区を訪れ、シンポー語とタイパケ語の現地調査を行い、動物語彙やナラティブの録音データを採集した。これについてはまだ十分な分析が済んでいないが、今後も継続して整理・分析を進める。

以上のように、本研究はインド北東部の言語文化のドキュメンテーションを通じて、言語多様性の保護と理解に寄与するものである。収集したデータは、今後の言語学研究や文化保存活動の基礎資料として重要な役割を果たすことが期待されている。今後も引き続き整理・分析を進め、研究成果の公開に努めたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計25件（うち査読付論文　12件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 Nathan Badenoch and Toshiki Osada	４．巻 1
２．論文標題 Expressives and Affect: Everyday Poetics in Natural Landscapes	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Ecological Entanglements: Affect, Embodiment and Ethics of Care	６．最初と最後の頁 117-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Kurabe, Keita	４．巻 1
２．論文標題 Kachin orature project: Documentation, archiving, and revitalization of oral heritage in northern Myanmar.	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Voices: Perspectives from the International Year of Indigenous Languages	６．最初と最後の頁 75-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kurabe, Keita	４．巻 17
２．論文標題 Hpu Lum Htu and two boys: A folktale text in Jinghpaw.	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Asian and African Languages and Linguistics	６．最初と最後の頁 105-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 村上武則	４．巻 14
２．論文標題 レプチャ語民話「人食い芋の話」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 言語記述論集	６．最初と最後の頁 255-260
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 村上武則	4．巻 17
2．論文標題 ヴァイペイ語とティディム・チン語の混成変種テクスト :Douthianpau 氏の話	5．発行年 2023年
3．雑誌名 アジア・アフリカの言語と言語学	6．最初と最後の頁 77-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hayashi, Norihiko	4．巻 5
2．論文標題 Negation in the Sino-Tibetan Context: A Brief Introduction.	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation.	6．最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 林範彦	4．巻 2
2．論文標題 中国および周辺領域のチベット・ビルマ諸語の参照文法書と諸問題	5．発行年 2022年
3．雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究　別冊2	6．最初と最後の頁 107-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 澤田英夫・林範彦	4．巻 2
2．論文標題 チベット・ビルマ諸語の参照文法書目録	5．発行年 2022年
3．雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究　別冊2	6．最初と最後の頁 149-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nishida, Ai	4．巻 60
2．論文標題 A Philological Study of the DvadasaDvadasangapratityasamutpada	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Revue d'Etudes Tibetaines vol. 60, New Research on Old Tibetan Studies ; Proceedings of the Panel Old Tibetan Studies VI; IATS 2019	6．最初と最後の頁 220-238
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 長田俊樹	4．巻 50
2．論文標題 多様性で解く現代インド－古代からの視点	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代インド・フォーラム2021年夏季号	6．最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nathan Badenoch, Toshiki Osada, Madhu Purti and Masayuki Onishi	4．巻 82(1-2)
2．論文標題 Expressive Lexicography: Creating a Dictionary of Expressives in the South Asian Linguistic Area	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Indian Linguistics	6．最初と最後の頁 25-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nathan Badenoch, Nishant Choksi, Toshiki Osada, and Madhu Purti	4．巻 1
2．論文標題 Performance in Elicitation: Methodological Considerations in the Studyof Mundari Expressives	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Advances in Munda Linguistics	6．最初と最後の頁 131-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kurabe, Keita	4．巻 1
2．論文標題 Typological profile of the Kachin languages.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 The languages and linguistics of mainland Southeast Asia: A comprehensive guide.	6．最初と最後の頁 403-432
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Osada Toshiki, Madhu Purti and Nathan Badenoch	4．巻 0
2．論文標題 Expanding the Model of Reduplication in Mundari expressives	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Expressives in the South Asian Linguistic Area.	6．最初と最後の頁 78-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kurabe, Keita	4．巻 39
2．論文標題 Serial verbs and monoclausality: A case study on Jinghpaw.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Kyoto University Linguistic Research	6．最初と最後の頁 93-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 倉部慶太	4．巻 0
2．論文標題 「ジンポー語の名詞修飾表現」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『日本語と世界の言語の名詞修飾表現』	6．最初と最後の頁 323-340.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西田愛	4．巻 25
2．論文標題 「木簡に記された古代チベットの食文化」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『FIELD PLUS』	6．最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西田愛	4．巻 1
2．論文標題 「古代チベットの占い」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『チベットの歴史と社会（上）』	6．最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西田愛	4．巻 1
2．論文標題 「古代チベットの宗教」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『チベットの歴史と社会（上）』	6．最初と最後の頁 233-236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Keita Kurabe	4．巻 1
2．論文標題 Animal nomenclature in Jinghpaw.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Topics in Middle Mekong Linguistics.	6．最初と最後の頁 75-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Keita Kurabe	4．巻 38
2．論文標題 Where have all the adjectives gone? The case of Jinghpaw.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Kyoto University Linguistic Research	6．最初と最後の頁 29-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計37件（うち招待講演　3件／うち国際学会　20件）

1．発表者名 林範彦
2．発表標題 「アジア諸語における否定現象の類型的特徴における諸問題－シナ・チベット諸語を中心に」
3．学会等名 言語の類型的特徴対照研究会第20回大会（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Hayashi, Norihiko
2．発表標題 Typological Profiles of Negation in Youle Jino and Tibeto-Burman.
3．学会等名 北京師范大学語言科学研究中心語言類型学系列講座（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Osada, Toshiki
2．発表標題 Notes on place names in the state of Jharkhand in India
3．学会等名 SALA meeting（国際学会）
4．発表年 2022年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 現地の人々とともに作るミャンマー北部の口承文芸のアーカイブ
３．学会等名 デジタルアーカイブ学会第7回研究大会企画セッション「文脈」を伝える-アジア・アフリカをアーカイブするための方法的探究.
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kurabe, Keita.
２．発表標題 Bridging constructions in Jinghpaw.
３．学会等名 The 55th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Nishida, Ai
２．発表標題 Plotting out the troops: The Old Tibetan rock inscriptions in Ladakh
３．学会等名 the 16th Seminar of International Association for Tibetan Studies（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Nishida, Ai
２．発表標題 Dice divination in Tibetan Buddhism
３．学会等名 19th Congress of International Association for Buddhist Studies（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 西田愛
２．発表標題 西チベット岩石碑文研究の現在
３．学会等名 2022年度 ユーラシア歴史文化研究班 第4回研究例会
４．発表年 2022年

１．発表者名 西田愛
２．発表標題 岩石碑文に見る古代チベット氏族の移動
３．学会等名 四研究所合同シンポジウム アジアにおける「脱境界」：移住、交渉、共生（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 西田愛
２．発表標題 古代チベットの葬儀における動物供儀
３．学会等名 チベット・ヒマラヤ牧畜文化論の構築-民族語彙の体系比較に基づいて 2022年度 第3回研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 村上武則
２．発表標題 インド北東部におけるブネイ・メナシェと中国エクソダス論―クキ・チン系諸民族の起源をめぐる言説の展開と錯綜
３．学会等名 日本文化人類学会第 56 回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 村上武則
２．発表標題 インド北東部における公用語普及の問題
３．学会等名 日本言語政策学会第 24 回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Murakami, Takenori
２．発表標題 Analyzing the Obsolete Vocabulary from Old Vaiphei Folk Songs
３．学会等名 The 55th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 村上武則
２．発表標題 2022 年マニプル州議会選挙と BJP 政 権の 5 年
３．学会等名 日本南アジア学会第 35 回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Murakami, Takenori
２．発表標題 Unconventional Syntaxes in Nagamese
３．学会等名 南アジア国際言語学会&ネパール言語協会(SALA36 & LSN43)（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 村上武則
２．発表標題 インド北東部マニプル州南東部チャンデル県における「ナガ」の自己定義
３．学会等名 東南アジア学会第 104 回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 村上武則
２．発表標題 インド北東部における「ユダヤ」言説の展開と教団組織化
３．学会等名 東京大学南アジア研究センター・セミナー:現代世界とユダヤ―インドとアルゼンチンの事例から―
４．発表年 2022年

１．発表者名 Murakami, Takenori
２．発表標題 Clusivity and Benefactive / Malefactive =ei in Vaiphei
３．学会等名 第 12 回インド北東部言語学会(NEILS12)（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 西田愛
２．発表標題 占いと詩歌
３．学会等名 『シンポジウム「詩歌から広がるチベット世界」』
４．発表年 2022年

１．発表者名 Keita Kurabe
２．発表標題 Is Jinghpaw conservative or innovative? The lexical borrowing rate in Jinghpaw.
３．学会等名 The 2nd Workshop on Linguistic and Cultural Diversity in the Northeast India-Myanmar-Southwest China region（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kellen Parker van Dam, Keita Kurabe.
２．発表標題 A comparative account of the Jinghpaw lexicon in China, Myanmar and India: Evidence of the limited effects of language contact.
３．学会等名 The Sixth Workshop on Sino-Tibetan Languages of Southwest China（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Keita Kurabe
２．発表標題 The scale of receptivity in Kachin contact linguistics.
３．学会等名 The 1st International Conference of the Tibeto-Burman Linguistics Association of North East India（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 北ビルマの言語収斂
３．学会等名 ユーラシア言語研究コンソーシアム2020年度年次総会.
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 東南アジア大陸部諸語における発声類型の地理分布
３．学会等名 日本地理言語学会第二回大会
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 Toshiki Osada, Masato Kobayashi
２．発表標題 Grouping of the three minor Kherwarian Munda languages
３．学会等名 International Conference on Austroasiatic Languages（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Toshiki Osada
２．発表標題 Expressives in Mundari
３．学会等名 An international conference on affect, embodiment and ecology: multi-disciplinary Perspectives（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 「ジンポー語の変化相と限界性 」
３．学会等名 日本言語学会第159回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Keita Kurabe & Lu Aung.
２．発表標題 Kachin Orature Project: Documentation, maintenance, and revitalization of the oral heritage in northern Myanmar.
３．学会等名 The International Year of Indigenous Languages 2019: Perspectives Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Norihiko Hayashi
２．発表標題 *rwak in Tibeto-Burman--- A Case of Trans-Himalayan Faunal Linguistics ---.
３．学会等名 The 26th Himalayan Languages Symposium（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Toshiki Osada
２．発表標題 A comparative study of creation myths in Mundari
３．学会等名 The 26th Himalayan Languages Symposium（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Ai Nishida
２．発表標題 “Transmission of Divination Literature and Practices in Bhutan”
３．学会等名 The 26th Himalayan Languages Symposium（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 倉部慶太
２．発表標題 北ビルマの言語文化のデジタルアーカイブ化とその利活用
３．学会等名 デジタル・ヒューマニティーズで“繋がる×広がる”人文学.
４．発表年 2023年～2024年

１．発表者名 Keita Kurabe
２．発表標題 Morphosyntax of the Jinghpaw-Luish Languages.
３．学会等名 Workshop on Languages and Cultures in Northeast India and Its Surrounding Areas.（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 西田愛
２．発表標題 「出土資料による古代チベット研究」
３．学会等名 『ラダック地方の文化と遺産』
４．発表年 2023年

〔図書〕　計8件

１．著者名 長田俊樹	４．発行年 2023年
２．出版社 ひつじ書房	５．総ページ数 320
３．書名 上田万年再考:日本言語学史の黎明	

１．著者名 長田俊樹・Madhu Purti	４．発行年 2022年
２．出版社 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所	５．総ページ数 173
３．書名 ムンダ語教本	

１．著者名 倉部慶太	４．発行年 2020年
２．出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.	５．総ページ数 307
３．書名 『ジンポー語用例辞典』	

１．著者名 倉部慶太	４．発行年 2020年
２．出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.	５．総ページ数 302
３．書名 『ジンポー語読本』	

１．著者名 倉部慶太	４．発行年 2020年
２．出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.	５．総ページ数 428
３．書名 『ジンポー語文法入門』	

1．著者名 長田俊樹・ネイサン・バデノック編	4．発行年 2019年
2．出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5．総ページ数 298
3．書名 『ムンダ語擬音語擬態語辞典』	

1．著者名 長田俊樹編	4．発行年 2020年
2．出版社 三省堂	5．総ページ数 360
3．書名 『日本語「起源」論の歴史と展望』	

1．著者名 今枝由郎・西田愛・岩尾一史	4．発行年 2024年
2．出版社 公益財団法人 東洋文庫242	5．総ページ数 242
3．書名 『古代チベット仏教伝道文学と葬儀の変容』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	長田　俊樹 (Osada Toshiki) (50260055)	総合地球環境学研究所・研究部・名誉教授 (64303)	
研究分担者	倉部　慶太 (Kurabe Keita) (80767682)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・助教 (12603)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	西田　愛 (Nishida Ai) (90723693)	京都大学・白眉センター・特定准教授 (14301)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	村上　武則 (Murakami Takenori)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・ジュニアフェロー (12603)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関